

おうちのひとのための 交通安全新聞

5月

保護者自身が正しい交通ルールの手本になりましょう



保護者は子どもにとって最も身近な指導者です。子どもは大人の行動を真似し、それが正しいものと思います。

子どもが正しい交通ルールを身につけるためには、一番身近な大人である保護者がお手本となることが重要です。

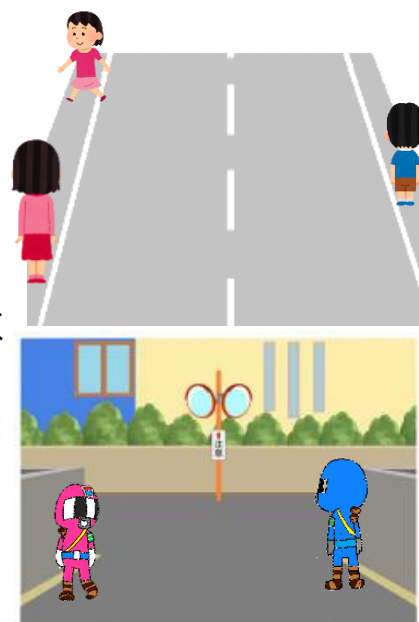
まずは保護者が正しい交通ルールを再確認しておきましょう。

道路のどこを歩く？

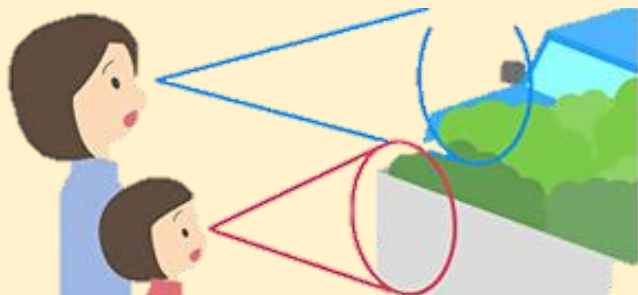
普段、何気なく歩いている道路。「どこを歩くの？」とお子さんに聞かれたら、どのように答えますか？

普段から「交通ルール」をしっかり伝えていきたいですね。

- ① 歩道があるときは、歩道の建物側や田んぼ側(車道から遠い側)を歩く
(ガードレールのある道の方がより安全です)
- ② 歩道が無く(路側帯の)白い線だけのときには、白い線の内側を歩く
(右側を歩くために道路を横断する必要はありません)
- ③ 白い線もないときには、道路の右側を歩く(右側通行)
(左側通行の車やバイクや自転車が前から来るので良く見えます)



子どもの目線で歩いてみよう



一緒に歩くことで、いろいろと気がつくことが多いと思います。ご自身がお子さんの目線の高さにしゃがんでみると、今まで気がつかなかったことに気がつくかもしれません。